

鹿病防第16号  
平成24年8月8日

各関係機関・団体の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

平成24年度発生予察技術情報第7号（果樹カメムシ類）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので送付します。

## 平成24年度技術情報第7号

本年の果樹カメムシ類の発生はまだ少ない状況であるが、今後、新成虫の増加に伴い、ヒノキから離脱して果樹園へ飛来し、加害する恐れがあるので、発生状況に注意が必要である。

### 1 対象作物 カンキツ、ナシ、カキ等

### 2 情報の根拠

- （1）ヒノキ球果寄生状況調査では、13地点中12地点でカメムシ類の成・幼虫が確認され、特に、ツヤアオカメムシの寄生密度は3.5頭/地点（うち、幼虫0.4頭）で、前年の0.3頭/地点（うち、幼虫0.1頭）と比べて高い（表1）。
- （2）ヒノキ球果に寄生が確認された12地点のうち8地点で老齢幼虫が確認され、新成虫がすでに発生している可能性が高い（図1）。
- （3）ヒノキ球果の寄生虫数は越冬虫数が少なかったため前年より少ないものの、本年のヒノキ球果結実量は全体的に中程度で前年よりも多く、寄生虫数は今後増加すると予想される。
- （4）カメムシ類は口針鞘数（吸汁痕数）が約25本/果を越えるとヒノキの樹上から離脱する。8月上旬の平均口針鞘数は1.4本/果（前年5.9）で、7月下旬の0.1本/果（前年1.9）よりも増加している（表1、7月下旬のデータは省略）。
- （5）これまでのところ、県内5か所の予察灯での誘殺数は少なく推移しているが、今後、新成虫の増加に伴い、ヒノキから離脱し、局地的に果樹園へ飛来する可能性がある（図2）。

### 3 防除上注意すべき事項

- （1）カメムシ類の飛来は地域間差、ほ場間差があるので、園内の発生状況の把握に努め、発生に応じて防除を行う。
- （2）山林（ヒノキ、スギ）に近い果樹園ほど飛来が多くなる傾向があり、特に、防風樹としてヒノキを植栽している園地では注意する。
- （3）飛来を認めた場合、一回目の防除は残効の長い合成ピレスロイド系薬剤またはネオニコチノイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は、ハダニ類の発生を助長するので散布後の発生に注意する。
- （4）防除にあたっては、防除薬剤の使用回数や使用時期を厳守し、収穫期の近い樹種では、収穫開始予定日を想定して農薬を選定する。
- （5）黄色蛍光灯（波長500～600nm）を集団点灯するとチャバネアオカメムシへの飛来防止効果が高い。
- （6）果実への袋かけや防虫網（網目：4mm）の被覆は、被害を軽減できる。

<参考資料>

表1 ヒノキ球果でのカメムシ類寄生数及び口針鞘数（8月上旬調査）<sup>1)</sup>

調査場所	平成24年			平成23年		
	ツヤアオ <sup>2)</sup> カメムシ	チャバネアオ <sup>2)</sup> カメムシ	平均 <sup>3)</sup> 口針鞘数	ツヤアオ <sup>2)</sup> カメムシ	チャバネアオ <sup>2)</sup> カメムシ	平均 <sup>3)</sup> 口針鞘数
いちき串木野市1	1(0) <sup>4)</sup>	21(10) <sup>4)</sup>	0.7	0(0) <sup>4)</sup>	7(4) <sup>4)</sup>	5.8
いちき串木野市2	7(0)	34(7)	4.6	0(0)	43(13)	5.0
薩摩川内市東郷町	0(0)	0(0)	0.6	0(0)	18(7)	3.6
さつま町	0(0)	13(2)	0.9	0(0)	59(29)	16.1
阿久根市	2(0)	18(2)	0.4	0(0)	35(14)	2.1
出水市高尾野町	2(0)	5(1)	0.1	—	—	—
出水市1	4(0)	10(0)	2.1	0(0)	20(5)	2.2
出水市2	10(3)	10(1)	3.9	—	—	—
出水市3	2(1)	13(4)	3.0	0(0)	45(17)	4.7
霧島市溝辺町	1(0)	3(0)	0.1	0(0)	14(4)	3.9
垂水市	2(0)	18(2)	0.3	2(1)	60(12)	10.9
南さつま市加世田	13(1)	4(0)	0.5	1(0)	8(4)	9.3
日置市吹上町	2(0)	19(2)	1.4	0(0)	14(7)	1.9
平均	<b>3.5(0.4)</b>	<b>12.9(2.4)</b>	<b>1.4</b>	<b>0.3(0.1)</b>	<b>29.4(10.6)</b>	<b>5.9</b>

- 注) 1. 調査は、平成24年8月2日～6日、平成23年8月2～4日にかけて実施した。  
 2. 調査方法は、2ヶ年とも1地点で10ヶ所を選定し、捕虫網によりそれぞれ5～7回振り落としした。  
 3. ヒノキ球果1果当たりの口針鞘数（ヒノキ球果20果/地点を調査した平均値）  
 4. 数字は、成虫・幼虫の合計値で、( )内は幼虫数である。

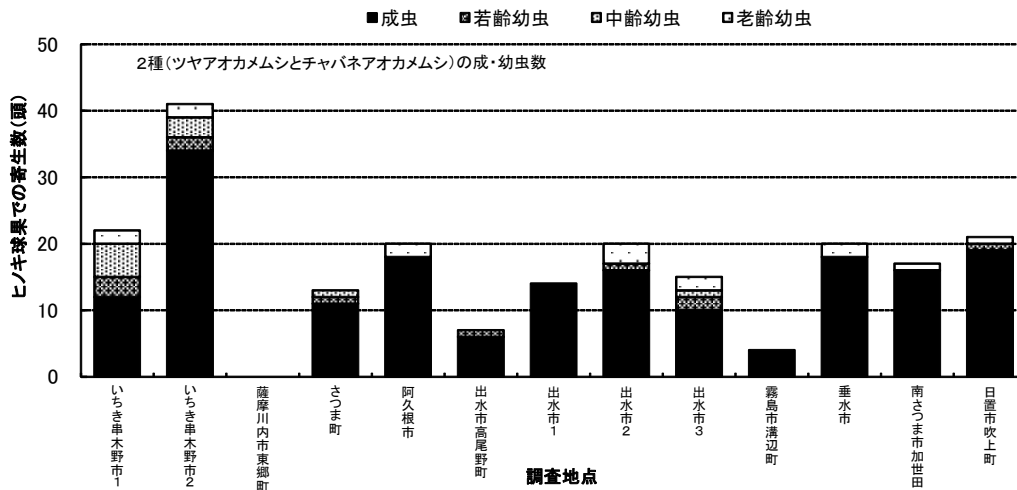


図1 ヒノキ球果でのカメムシ類（2種計）の寄生状況（平成24年8月上旬調査）

注) 成・幼虫数：1地点で10ヶ所を設定し、捕虫網によりそれぞれ5～7回振り落としした合計値

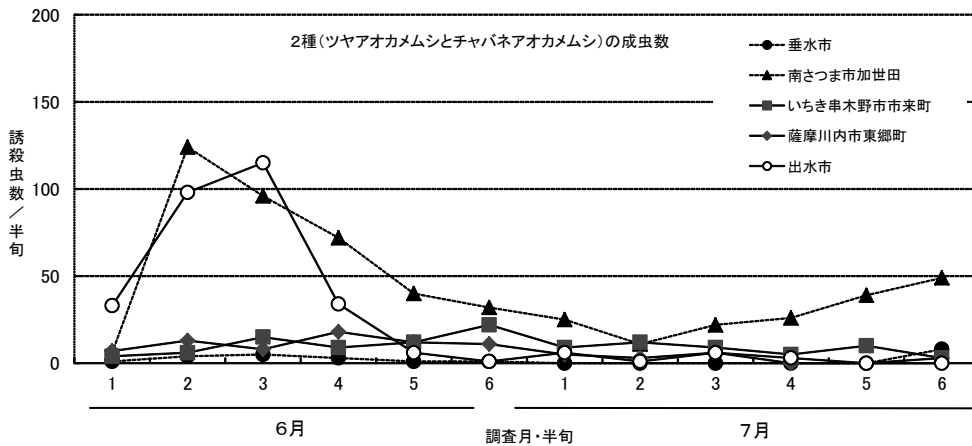


図2 予察灯におけるカメムシ類（2種計）の誘殺状況（平成24年）